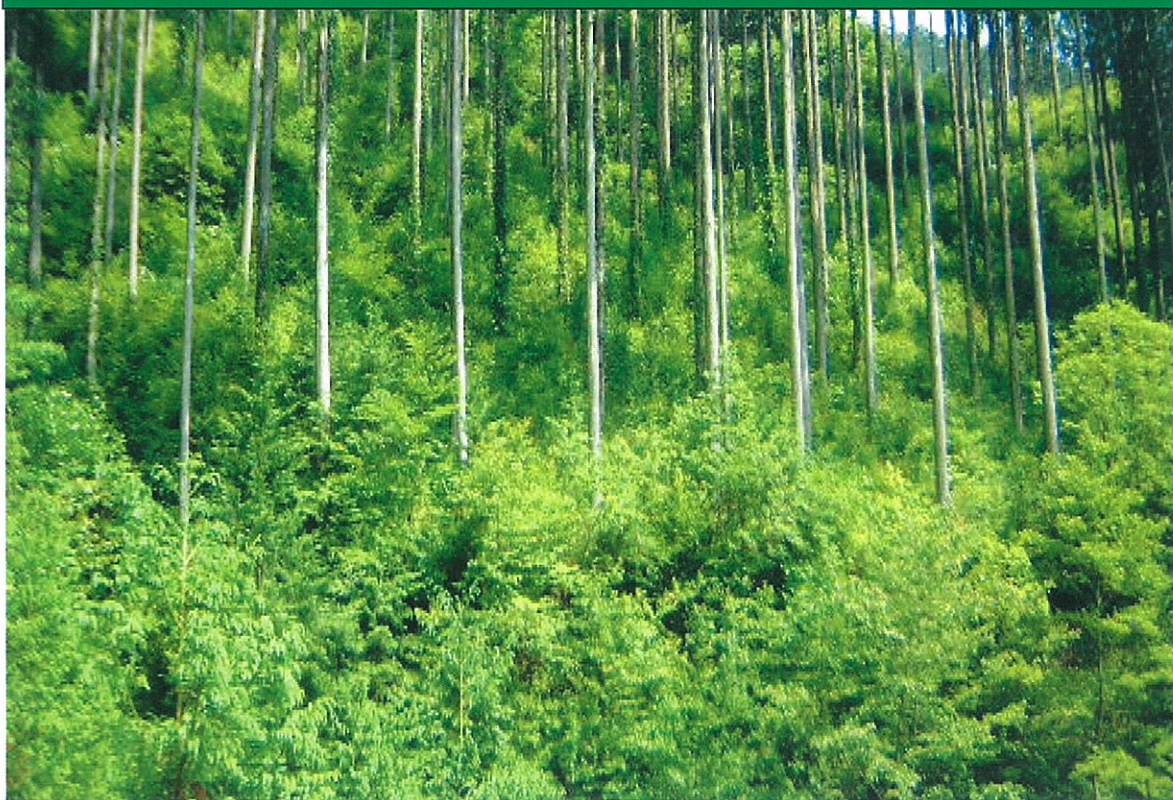


平成 14 年度

国有林間伐推進コンクール
最優秀賞事例の概要



国民の森林・国有林

林 野 庁

間伐事業部門最優秀賞

列状間伐と高性能林業機械により 4,000 円台 /m³の間伐コストを実現

北海道森林管理局長推薦
大浦木材株式会社

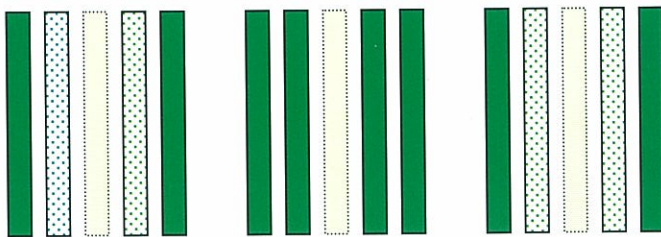


トドマツ林(1956年植栽)
植栽仕様：5条植栽、3,500本/ha
路網密度：40m/ha
平均傾斜度：10度



今回の2伐6残の列状間伐(2001)
間伐率：25%
残存本数：900本/ha

左写真：間伐後



- ①前回1993年(37年生)に5条植栽の中央列を列状間伐
- ②今回2001年(45年生)は、前回間伐した中央列の両サイドを間伐

図 間伐のイメージ図



作業仕組み

従来方式 (5人セット)
チェーンソー伐倒・造材(3人)→トラクタ集材(1人)→巻立(1人)



現行方式(2人セット)
ハーベスタ伐倒・造材(1人)→グラップル集材・積込み(1人)



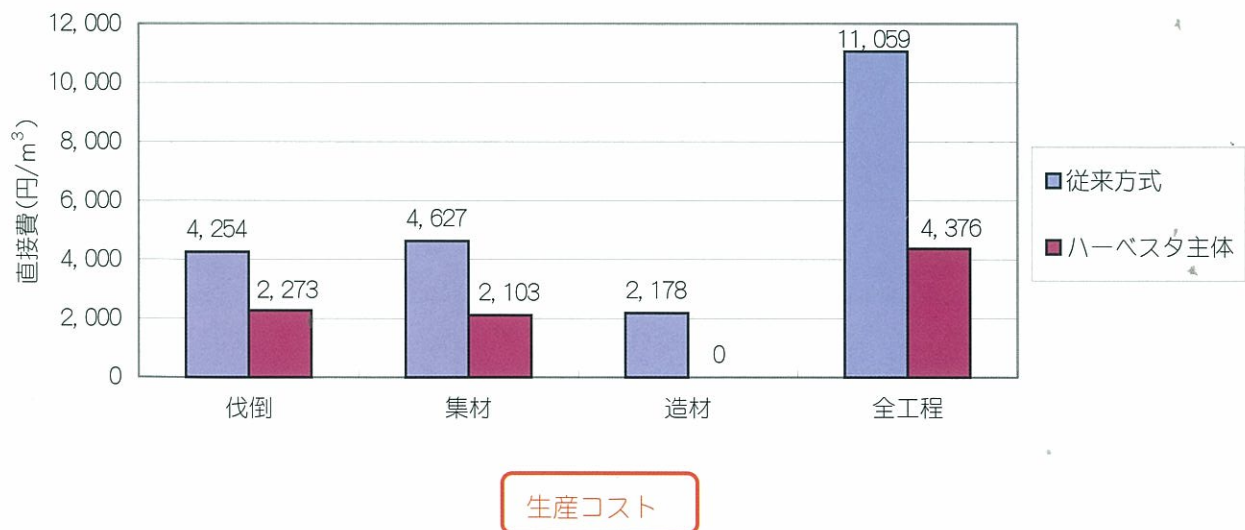
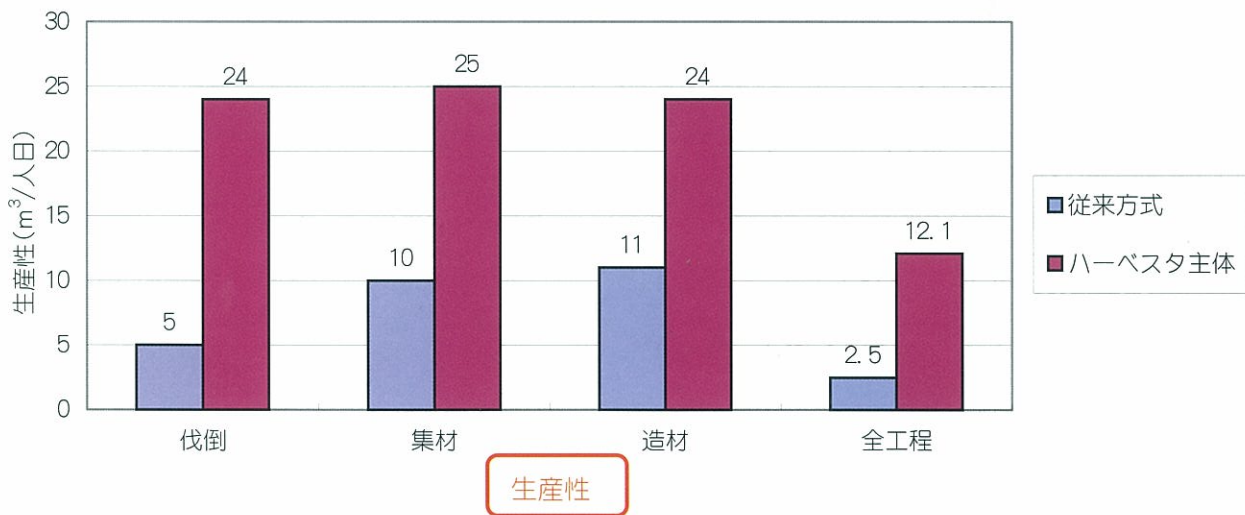
(ハーベスタによる伐倒・造材)



(グラップルによる集材・積み込み)



生産性：2.5m³/人日（従来方式）→12.1m³/人日（今回間伐方式）
 生産コスト：11,059円/m³（従来方式）→4,376円/m³（今回間伐方式）



間伐材利用部門最優秀賞

カラマツ間伐材現地組立外柁木製谷止工

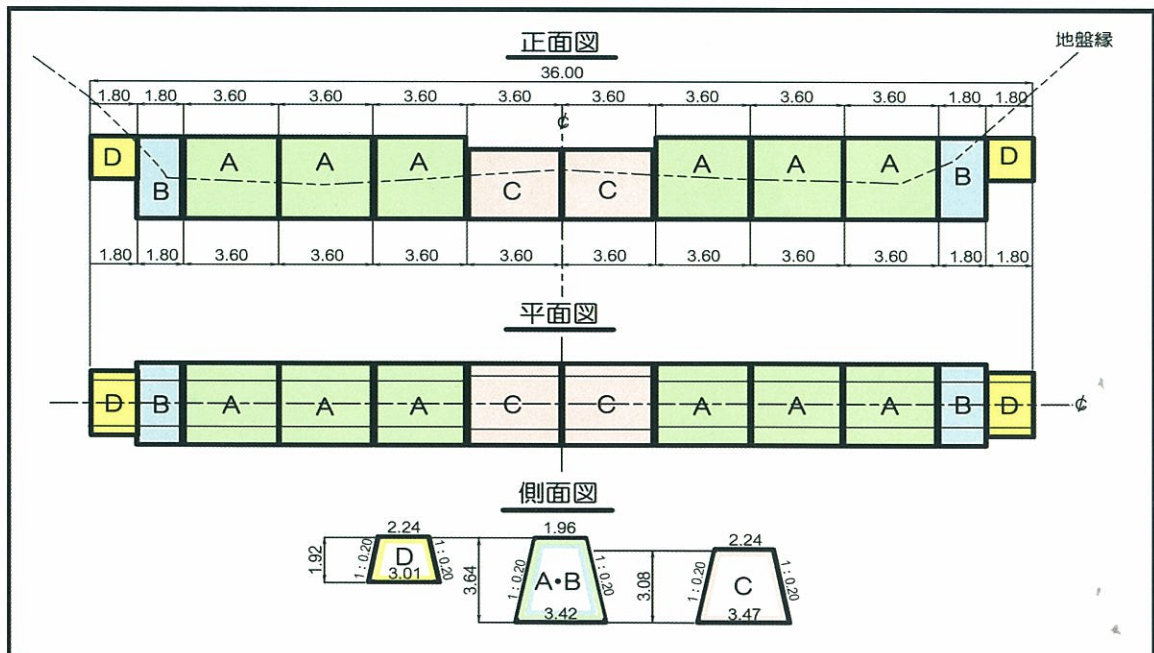
北海道森林管理局旭川分局長推薦
 林業土木コンサルタント旭川事務所
 旭川分局治山第二課

工事概要

本工法は、平成13年度に旭川分局が実行した留萌南部森林管理署管内の「アナトロマナイ左沢治山工事」に採用した工法。

工事は、直径約14~18cm、長さ1.8~3.6mのカラマツ間伐材228m³（立木換算で約8haの間伐事業量に相当）を使用し現地で組立てた三つのタイプの支保工を、ボルトと「手違いカスガイ」で結合したのち、柁の中に5~15cm程度の栗石を詰め木製谷止工である。

構造図



支保工 A・B タイプ



支保工 C タイプ



支保工 D タイプ



施工方法



支保工の配置(現地で組立し構造図により配置)



「手違いカスガイ」打ち込み



完成

施工対象地

- 流水が少なく、流送砂礫が小さく、溪床勾配も緩やかな箇所
- 構造物が腐朽しても植生の繁茂等によって代替が期待できる箇所

工法の特徴

- 木材を使用しているため加工が容易であり、構造も簡素で施工性が良い。
- コンクリートのような養生期間がないことから工期の短縮が図られる。
- 「手違いカスガイ」の使用により組立加工が容易である。
- 現地発生砂利(栗石)の利用によりコストの縮減が可能である。
- 現地組立により運搬が容易である。

(連絡先)

財団法人林業土木コンサルタント旭川事務所 TEL 0166-61-3513

—この工法は旭川分局が全力を挙げて取り組んできた、
「間伐材使用・間伐推進プロジェクト」から生まれたひとつ—

旭川分局の 間伐材使用・間伐推進 プロジェクト

— 川下（利用）から川上（間伐促進）へのアプローチ —

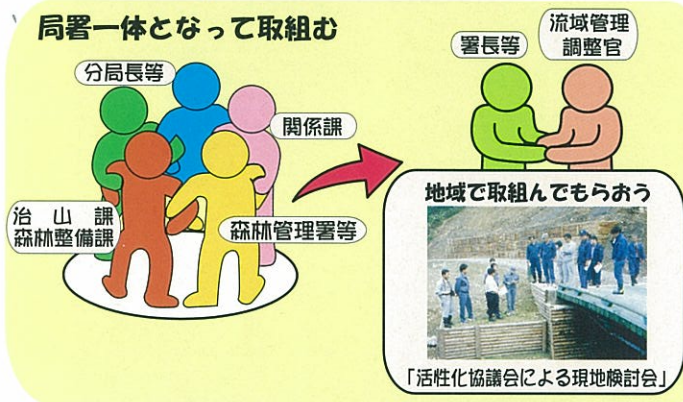
「合い言葉」



会議の様子

- ・ 森林土木事業等に自ら徹底して使う
- ・ 間伐をすすめ「森林のちから」を高める

「取組み体制」



「現地の間伐をもっとすすめなけりゃ」

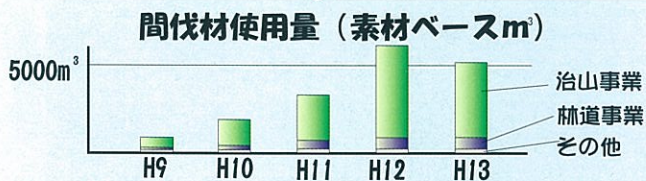
間伐を安く効率的にやろう

列状間伐でコストを下げよう



2伐4残も出来るぞ!

その成果は



列状間伐の採用率 (材積)

平成11年度実績 23%

平成13年度実績 34%

「目標」

管内に施工事例を配置し「間伐材利用博物館」にしよう



(連絡先)

北海道森林管理局旭川分局

企画調整第一分室
治山第二課

TEL 0166-62-6738
TEL 0166-61-1277